


音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
		中医学生薬解説、参考・使用上の注意 および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
せー25	せんそうこん 茜草根 (新絳 =茜草根で染めたる絹のこと)	苦・寒 肝・心包	9~15g、煎服。外用には適量。
 <p>アカネの地下部</p>		<p>中医生薬解説</p> <p>止血化瘀 血熱有瘀の鼻出血、吐血、血便、不正性器出血、出血性下痢などに、生地黄・側柏葉・大薊・小薊などと用いる「十灰散」「茜根散」。 虚寒の不正性器出血に、黄耆・烏賊骨・棕櫚炭などと用いる「固衝湯」。 外傷出血には、紫珠草・白芨などと粉末にし外用する。</p> <p>涼血行瘀 血熱瘀滞の月経痛、無月経や産後瘀阻の惡露停滞に、単味を酒と共に煎服するか、桃仁・紅花・当帰・赤芍などと用いる。 打撲外傷に、紫草・丹参などと用いる。</p>	
		<p>参考 茜草根は婦科の要薬であり、＜内経＞の方剤にも用いられている。 生用すると清熱涼血、行瘀に、炒用すると止血化瘀に働くが、生用しても止血するので習慣的に止血薬としてよく用いられ、血熱有瘀の出血に最も適する。</p>	
<p>中医以外の生薬解説</p>			
神農本草經		味苦寒、寒熱風痺黄疸を主どり中を補ふ。	
別 録		氣味苦寒、無毒、主治は止血、内崩、下血、膀胱不足 ^{いてつ} 、 痿 、 瘰 、久服すれば精氣を益し身を軽くす、以て絳く染むべし、又苗根は痺及び熱中傷跌折を主どる。	
新古方薬囊		味苦寒、血の熱を去り其通りをよくするを主どる。 新絳 は 旋覆花湯 中に用ひられ婦人の身體甚だ疲れ血下りて止まざる者を治す、委細は其條下に在り。	